

平成28年度 学校評価

島根県立横田高等学校

学校経営方針

(1) 奥出雲町唯一の県立学校としての使命を常に自覚し、生徒一人ひとりのニーズや抱える課題を把握しながら、生徒・保護者及び地域の要請や期待に応えられるような教育活動を、教育目標『耕心培学』のもとに、学校全体で展開する。
 (2) 「地域の学校」として、生徒や学校の存在が地域の活力の原動力となるよう、「開かれた学校」を推し進め、生徒の元気や学校の活力を奥出雲町内外に発信する。

本年度の目標	重点目標	目標達成のための方策	評価指標	自己評価	学校関係者評価（7名）		改善策
						意見等	
キャリア教育の推進 学力の向上	生徒の学力の向上 教員の授業力の向上	①授業の工夫改善を行い、授業力を向上させ、生徒の学力を向上させる	生徒による授業評価 4.3ポイント以上 生徒、保護者、教職員アンケートによる 肯定的評価80%以上	B	B	学力の問題は幼小中で共通の課題として取り組んでいる。それが高校へも影響するので、今後は幼小中と高校の連携をどう考えていくかが大切。	授業公開・授業参観を活発にし、教科の枠を超えたわかる授業の工夫を学びあい、教師個々の授業力を向上させる。
ふるまいの向上 自己実現の支援	学習習慣の確立	②学習習慣の定着に向けて指導し、年3回の家庭学習時間調査で検証する	学習時間調査の結果 60分以上 90% 90分以上 50% 生徒、保護者、教職員アンケートによる 肯定的評価80%以上	D	C	高校での家庭学習時間の目標値をもう少し高め、それを達成させるための工夫が必要。家庭での過ごし方、集中の仕方など家庭との連携強化が必要である。	来年度は学習ガイドを作成するのでこれを有効活用し、日々の家庭学習の習慣づけにつなげる。 総合コースにも対応できるような課題を設定し、そのほかの学習時間も充実させる。
	進路情報の適切な提供	③「みちしるべ」の発行、企業訪問、各種体験学習等を通じた、進路情報の提供を充実させる	生徒、保護者、教職員アンケートによる 肯定的評価80%以上	B	B		行事を精選し体験学習、インターンシップなどを充実したものにする。
人権尊重の精神 意欲的で活気に満ちた学校づくり	人権尊重の精神の涵養	④各学期に1回実施する人権・同和教育に関するホームルームや講演を通し、人権教育を進め、生徒の人権意識を高める	生徒、教職員アンケートによる 肯定的評価80%以上	B	B	発達段階に応じた指導が必要と考えられるので、中高の担当者同士での情報交換を大切にしていきたい。	校内推進委員会を定期的開催し、指導計画・指導案の十分な検討を行い、実施後の振り返りを充実させる。
豊かな感性や知性の醸成 キャリア教育の推進	地域と連携した生徒会活動の充実	⑤全校生徒が参加できる稲稜祭等の行事を生徒会主体とするとともに地域へのPRを充実させ学校の魅力を高める	生徒、保護者、教職員アンケートによる 肯定的評価80%以上	B	B	アンケート結果にも示されているように評価が高く、魅力ある取り組みになっているが、稲稜祭(文化祭)が閉鎖的で内向きな行事となっているのでやり方を工夫することで対外的なPRの場とする。	各企画内容を早期に決定し柱となる企画を確定することにより、保護者、地域への周知を早期に図る。
	総合的な学習の時間の充実	⑥「奥出雲学」や「だんだんカンパニー」を中心に魅力化事業を充実させ、学校の魅力を高める	生徒、保護者、教職員アンケートによる 肯定的評価80%以上	A	A	今後も横田高校として特色ある活動を期待する。	今年度の成果をもとに引き続き次年度にむけても意欲的に取り組む。
地域から信頼され期待される学校づくり	保護者や地域への情報発信	⑦学校からの情報を発信するため、コーディネーター通信と連携した「稲田が丘」の発行とホームページの内容を充実させる	生徒、保護者、教職員アンケートによる 肯定的評価80%以上	B	B	今後も継続的に情報発信に努めてもらいたい。	生徒保護者に配布する「稲田が丘」をより見やすい紙面とする。生徒が求める情報について検討し、さらなる内容の充実を図る。
	保護者や地域との連携の推進	⑧学校行事等の公開やPTA活動を通して、保護者や地域と連携した活動を充実させる	保護者、教職員アンケートによる 肯定的評価80%以上	B	B	保護者から高い評価をもらっているのは信頼される学校の証しだと考える。	保護者、地域の方が参加の予定を立てやすいように早めに案内する。HPを利用したPRを工夫する。
	中高連携の推進	⑨オープンハイスクールの開催や研修会への相互参加等を通し中学校との交流連携活動を充実させる	教職員アンケートによる 肯定的評価80%以上	B	B	互いの授業参観や部活動交流など中学校（とくに仁多中学校）との交流連携をもっと進める必要がある。	実施された取り組みについて教職員で情報共有を図り、さらにできそうなことを前向きに検討する。

評価基準（A・B・C・D 4段階） A：目標達成 B：ほぼ達成 C：達成までもう一歩 D：達成に至らず

○学校関係者評価委員からの主な意見

- 学力の向上等…引き続き少数指導、個別指導の充実をお願いしたい。
- 進路指導等…多様な進路志望の生徒に対しきめ細やかな情報提供と指導をお願いしたい。
- 情報発信等…緊急メールを活用し、学校行事の案内など直接保護者に情報が届く工夫をしてほしい。